

木地師 シンポジウム

= 伝統の継承と近代化 =

令和7年 **11月8日** (土)

13:00 ~ 16:30 (12:00 開場)

アピアホール 平和堂アル・プラザ八日市
ショッピングセンターアピア4F

近江鉄道「八日市駅」徒歩約3分

木地師の生み出す製品は、前近代までもっぱら庶民の日用品としての木の器が中心で、木地師がつくる白木地に塗師が漆を塗り、漆器として出回っていました。明治時代に入ると、木地師が培ったろくろ技術は、電動ろくろや旋盤加工へと受け継がれ、金属加工や家具・調度品、万年筆などの新しい業界が発展。我が国の近代産業発展の原動力となりました。今回の木地師シンポジウムは、「伝統の継承と近代化」をテーマに掲げ、研究者による基調講演と現職の木地師・塗師・寄木細工職人をパネリストにお迎えしたパネルディスカッションを行います。

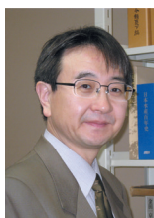
「ろくろと万年筆」

— 近代文字文化の基盤 —

こいけ じゅんいち

小池 淳一さん

国立歴史民俗博物館 教授



参加無料
申込不要

問い合わせ

東近江市企画部企画課

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL 0748-24-5610 FAX 0748-24-1457

E-mail kikaku@city.higashiomi.lg.jp

主催

東近江市・木地師のふるさと発信事業実行委員会

《林業遺産》

木地師文化発祥の地

「東近江市」



木地師という生業の起源は約1200年ほど前に遡ると言われています。第55代「文徳天皇」の第1皇子として生まれながら、皇位継承争いにやぶれ、数人の側近とともに都を離れ、小椋谷（現在の滋賀県東近江市）にたどり着いたと言われる惟喬親王。法華經の巻物の「巻軸が回転する原理」から轆轤（ろくろ）を思いつき、その技術を家臣の「小椋・大蔵」などの一族へ伝えたのが始まりと言われています。

**基調講演 13:10-14:10****「ろくろと万年筆—近代文字文化の基盤—」**

こいけ じゅんいち

小池 淳一さん 国立歴史民俗博物館 教授

1992年筑波大学大学院博士課程（一貫制）歴史人類学研究科単位取得。弘前大学人文学部講師、助教授、愛知県立大学文学部助教授等を経て、2011年から現職。博士（文学）。専門は民俗学・伝承史。特に陰陽道の展開過程、地域史における民俗の位相、万年筆を中心とする文字文化と民俗との関わりなどを調査・研究している。

パネルディスカッション 14:10-16:30 「木地師における伝統技術の継承とその課題」

全国の木地師・塗師5人が一堂に会し、木地師における伝統技術の継承とその課題について議論します。コメンテーターとして基調講演のスピーカーである小池さんや東近江市長を交え、これからの木地師のあり方について考えます。

<コメンテーター>

小池 淳一さん 国立歴史民俗博物館教授**小椋 正清** 東近江市長<コーディネーター> **筒井 正** 東近江市参与**川北 浩嗣さん**

石川県山中温泉木地職人

1991年石川県加賀市生まれ。2015年石川県挽物轆轤技術研修所に入学し、木地挽物を学び始める。木は同じ木であっても堅さも違えば木目も違い、とても個性が豊かである。また、挽物は木材のほとんどの部分が木屑になってしまう。木に感謝しつつ、木の持つ美しさを最大限に引き出した作品づくりを心がけている。

<主な受賞歴>第80回現代美術展・北國賞(2024)、害蟲展season5・5周年特別審査員賞服部雄二賞(2024)

**下村 祐介さん**

広島県廿日市市木地職人

1996年三重県多気郡明和町生まれ。広島市立大学芸術学部卒業後、同大学大学院を修了。在学中の2017年より伝統工芸士・藤本悟氏に師事し、宮島ろくろの技術を学ぶ。木の器や盆、一輪挿しやランプシェードなど、暮らしに寄り添う作品を制作。2025年に宮島へ移住し自宅工房を構える。現在は制作する傍ら、地域おこし協力隊として宮島細工のPRや宮島ろくろのワークショップを通じて伝統工芸の魅力を発信している。

<主な受賞歴>第47回宮島特産品振興大会ブランド大賞・広島県知事賞(2021)、第49回宮島特産品振興大会ブランド大賞・広島県知事賞(2023)

明治の末から大正にかけて、それまでの毛筆に代わって公的な筆記具となった万年筆。当初、海外から輸入された万年筆がしだいに国内で生産され大衆化した背景には、木地師のろくろをめぐる技術の応用がありました。エボナイトやセルロイドといった新素材に向き合い、細い軸にねじをきざみ、装飾をほどこす繊細で精密な技術は、万年筆を単なる筆記具から、実用性を兼ね備えた美術的な作品にまで高めました。変幻自在にろくろをあやつることで万年筆が生み出されていく過程を映像で確認しながら、伝統技術の創造力について考えてみたいと思います。

**露木 清勝さん**

神奈川県小田原市箱根寄木細工職人

1954年神奈川県小田原市生まれ。1977年に祖父が創業した「箱根寄木細工」製造販売の露木木工所に入社、1997年からは代表を務める。2002年には伝統工芸士の認定を受ける。(一社)箱根物産連合会会長、小田原箱根伝統寄木協同組合代表理事、(一財)伝統的工芸品産業振興協会理事を務め、寄木細工の振興に寄与している。

<主な受賞歴>箱根物産デザインコンクール特賞・神奈川県知事賞(1979・1983)、第12回全国伝統的工芸品展・伝産協会会長賞(1987)、第1回全国木のクラフトコンペ・金賞(2000)

**長谷川 利之さん**

福島県会津若松市木地職人

1959年福島県会津若松市生まれ。1982年木地師の父・長谷川久雄に従事し、木地師となる。漆器の素地としての木地を製作。木地は漆器の完成形を意識して製作しなければならず、使い手目線の製作を心がけている。2002年伝統工芸士の認定を受け、2017年には日本伝統工芸士功労者として表彰される。

<主な受賞歴>第28回会津新作総合展示会・奨励賞(1991)、あいづふるさと自慢フェスタ会津漆器新作総合展示会・奨励賞(1998)

**渡邊 嘉久さん**

滋賀県長浜市漆職人

1963年滋賀県長浜市生まれ。20代後半に父・渡邊信雄に師事、塗師となる。仏壇の漆塗りや山車の漆工品修復で培った技を基に、長浜漆器「常喜椀」復刻や余呉漆の植栽など、失われつつある文化の再生に挑んでいる。

<主な受賞歴>日本伝統工芸近畿展・新人奨励賞[乾漆盛器](2009)

パネリストが制作した木地製品や木地師について紹介するタペストリも展示します！